



解題

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

イエスは、復活の出来事の後に、様々な場所、弟子たちに見られた福音記者は記す。ガリラヤの山の上で(マタイ28:16)、食事の席で(マルコ16:14)、エマオへの途上(ルカ24:13)、そしてしっかりと戸に鍵をかけた部屋の中で(ヨハネ20:19)主は弟子たちの前に現れた。ある時は、疑う弟子にその手足、脇腹の傷を見せ(ヨハネ20:26)、またある時は、焼いた魚を一切れ食べた(ルカ24:43)と、記者は生き生きとした主の姿を描写する。もちろん、その現れた場所は、ガリラヤであったり、エルサレムであったりと違いはあるけれども、そこで、復活の主が語られたことは、全ての福音書に共通する。すなわち、宣教への派遣の言葉だ。「だから、あなたがたは行って、すべての民を私の弟子にしない。」(マタイ28:20)、「全世界に行って、全ての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ16:15)、「エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。」(ルカ24:48)と。そして今月のみ言葉「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」(ヨハネ20:21)という、弟子たちへの派遣の言葉であった。

12使徒と呼ばれる最初の弟子たち。彼らに与えられた「使徒(アポストロス)」という呼び名は、もともとはこの「遣わされた者」という意味なのだといった。地上を歩かれた主とともに生き、十字架の後、再び復活の主に出会い、その使命として、全世界への福音宣教の号令を聞き、その力の源となる聖霊を受けた彼らはまさに、神によって遣わされた者として死をも恐れず福音を宣べ伝え、働き始めた。ところが、もともとはこの「遣わされた者」の意であった「使徒」

瞑想

あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

ヨハネ20:21

主幹牧師 榎本 恵

徒」という言葉が、一つの権威としての称号となった時、それは新たな別の問題を引き起こす。パウロは、常に、この使徒の問題で苦しむ。彼の後から来た宣教師たちによって、パウロの使徒職に疑義が投げかけられたのだ。「他の人にとってわたしは使徒ではないにしても、少なくともあなたがたにとっては何者でもない。」(1コリント9:2)「人々からでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロ」(ガラテヤ1:1)など。彼は、手紙の中でたびたび自らの使徒職の正統性について語る。聖書学者のボロンカムは、それについてこのように書いている。「パウロの使信に攻撃が加えられると同時に、彼に与えられた使徒としての委託も、誰も彼を使徒に任命した者はいないとし、問題視された。この両者、ス・キリストと、キリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロ」(ガラテヤ1:1)など。彼は、手紙の中でたびたび自らの使徒職の正統性について語る。聖書学者のボロンカムは、それについてこのように書いている。「パウロの使信に攻撃が加えられると同時に、彼に与えられた使徒としての委託も、誰も彼を使徒に任命した者はいないとし、問題視された。この両者、

唱え、その「信仰による義」の使信と共に、当時のカトリック教会から破門の憂き目にあう。しかし、今のカトリック教会の中で、今や「使徒使徒職」という言葉が使われるようになってきている。聖職者や修道者だけでなく全ての信徒が、イエスキリスから任命され、派遣された使徒として、積極的に布教・奉仕などの教会活動を行うこと。このことが1962年の「第2バチカン公会議」で定められたのだ。「遣わされた者」使徒。それは一体誰が決める事なのか。もちろん自分勝手に福音をねじ曲げ、人々を惑わす異端の宣教者たちが今の時代にもいることに、深い憂慮を覚える。また私たちのアシュラム運動が、時として疑いの眼差しを向けられることに悲しくなることもある。けれども、遣わされた者、それは人からでも組織からでもない。ただ復活の主によってのみ遣わされたのである。ヨハネはこの派遣の言葉の後、主が「息を吹きかけられた」(ヨハネ20:22)と証言する。すなわち復活の主と出会い、聖霊の新しい息吹を受けなければ、誰も「使徒」になることは出来ないのだ。友よ、このことを忘れないで、私たちもまた遣わされた者として、堂々と生きていこうよ。

瞬きの詩人

水野源三の世界 33

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下 辰衛

包む 1983

雪がとけた
窓ぎわの
イヌフグリの花を
春の光が
優しく包む

枯木のような
私のからだを
キリストの愛が
キリストの愛が
温かく包む



長い根雪だった雪がとうとう溶けて、溶けたと思っただけで、その目の前の窓ぎわの土の所。そこに、イヌフグリの花が咲き始めたのでしよう。源三さんの春を待つ目が、それを見つけた日のころです。

外の世界を窓から見るしかない源三さんは、窓の外の雪がとけるのを、待ち続けていたのです。それは、長い長い時間だったでしょう。しかし遂に、窓ぎわの、ガラスのすぐ向こうに小さな小さな瑠璃色の花がある日咲いていました。

ガラスの向こうとこちらで、同じようにじつと、一心に春を待ち続けていた、いのちが二つ。源三さんとイヌフグリ。その出会い、あるいは再会。だからこそ、春の光が優しく包むのでしよう。神さまのところから溢れてこぼれてくる光が、優しく、優しく。待ち続けたものたちに。あきらめず、慌てず、信じて待ち続けたいのちたちに、春の光が。優しく包んでくれる春の光が、それは来た日でした。

「イヌフグリ」という花の名前は、人間がつけた名前です。「イヌフグリ」という名前は「イ

ヌ」の「フグリ」という意味です。それは蔑称に近いものかもしれません。人はそんな名前をつけて呼ぶかもしれない。でも温かい愛の光そのものである神さまの眼差しの中では、全く違う名前がある。小さな宝石のような、その花にふさわしい名前が、きっと。そして「枯木」の私にも、きっと。

源三さんのからだは麻痺して、運動できないために、まさに枯木のように細っていましたが、ここで「枯木のような私のからだ」と言うとき、イエス・キリストが、十字架を負ってゴルゴタへの道を歩みながら、生木でさえこのようであるなら、枯木はどうなることだろうと眩かれた、ルカの福音書の枯木の比喻も、源三さんの心には残っていたでしょう。だから、その枯木のような私にさしてくる春の光と、その光にもまして温かく包んでくださるキリストの愛なのでした。

キリストの愛が キリストの愛が

このリフレインにこめられている実感と感謝と至福の響き。それがこの詩の中心です。他にはないキリストの愛こそが、そして、他ではないキリストの愛だけが、他のどんなものよりも温かい愛が、私を抱擁してくださっている。今、確かに、私をこうして、包み抱いてくださっているのがわかる。枯木の私には、このキリストの愛しかないという告白です。

待ち続けた果てに、春を迎えた小さな花が、春の光に抱かれて包まれて咲いているように。あるいは長い冬の時間、死んだかのように見えた枯木に花が咲くように。温められて別のいのちが始まってゆくのなら、枯木のような人にも、いのちの春のわがは始まるに違いない。こんなにも、こんなにも温かい愛に包まれ温められているのですから。

「包む」という言葉には隠す、守る、覆う、大事にする、慎むなどの意味もありますが、孕むという意味もあったようです。神さまの手品でもあるかのように、包まれて、開かれる時、別のいのちになって生まれるという不思議があるに違いない。そんな希望もあるのでしょうか。源三さんの晩年のころの詩です。

松本 直美
藤田 増枝
横山 宜和
米田 康子
米田 歌子
塚家 玲子
山崎 恵子
村瀬 俊夫
吉田 すみえ
井上 明
井上 謙美子
沖田 和恵
沖田 朝子
榎本 恵
榎本 康子
榎本 光太
菅原 博
堺 大派
キリスト教会
前田 賢子
50 口
¥551,026

ヨセフ基金
吉田 すみえ
ちいろば
アツちゃん・
シュラム君
年頭アナム
マハンドラ師
支援者
4 口
¥29,945

新修場
のために
たびんちゅ牧師
1 口

合 計
55 口
¥582,971

専らご献金、
ご献品、お祈り、
感謝いたします

主幹牧師の2018年ビジョン(3)



先生は語る説教を生き様を通して教えてくださいました。アブラハムは何処へ行っても祭壇を築いたごとく、吾々は何処へ行ってもまず早天祈祷会を怠るな、毎朝のレビの時を欠かさな。「朝の15分があなたをかえる」、また、自分の状態がどうであろうとも神のこばを第一にせよ。「まず神の国と神の義を求めよ」とおっしゃいます。遺訓として受けとめて参りましょう。

唄野政一「榎本先生の歩みと遺訓」より

アシュラムセンターの常任運営委員長として、センターを支えてきてくださった唄野政一長老は、「ちいろば牧師アシュラムを語る」の前書きの中でこう語っておられます。私たちが、この40年早天祈祷会を続けてこれたのは、まさにそれを遺訓として受けとめ、守って来たことなのであります。もちろん、それを続けることは簡単なことではありませんでした。今から11年前、私が主幹牧師として赴任した時、朝の早天は母と私の二人きりでした。この「早天祈祷会を怠るな」「毎朝のレビの時を欠かさな」という遺訓を守り続けることの困難さは、やったことのあるものなら誰もが経験することであろうと思います。今、幸いなことに、毎朝の早天祈祷会は、修道生たちが共に集い、常時5、6名で守られています。主は本当に不思議な導きを通して、このセンターの働きを続けさせてくださっています。しかし、そこで安心して



広野祈りの家 猪瀬姉と

はいけない。たとえたった一人になったとしても、それを遺訓として守り続ける覚悟こそが、私たちには必要なのです。どうか、このセンターの祈りの輪の中に、皆さん

も加わってください。今年度より月一度のリトリートアシュラムを始めようと準備しています。センター聖書教室、早天祈祷会をプログラムに入れ、ゲストハウス「アンナ祈りの家」を用い、少人数の2泊3日のアシュラムプログラムを行いたいと思っております。是非皆さんの参加をお待ちしています。



新さん祈りの家
長年待ち望んでおられた事が、主によって成し遂げられました！

さて、昨年のビジョンとして、アシュラムの友が高齢化し、なかなかアシュラム集会に参加できないという声に応え、アシュラムの方から皆さんのところへ行きますということ掲げさせていただきました。現在、兵庫県三木市のアシュラムの友、猪瀬和子姉がご自宅を解放し、「広野祈りの家」の集会が10年に渡って続けられて来ました。そして今年11月より、東京町田の黒見妙子姉のご自宅で「ちいろば祈りの家」の集会が始まりました。黒見姉のたつての願いにより、プロテスタント、カトリックの友が一緒に集ってくださっています。このように、アシュラムの集会は場所も、人数も関係ありません。「アシュラム運動が広がっていくことではなく、キリスト信徒一人一人の生活の中に、日々新しく主の養いを受ける密室が守られていくこと」このことこそが、私たちの最も大事な仕事なのです。今年も新たに「祈りの家」のできることを祈っています。(続く)

あとがき

無事にロサンゼルスでのアシュラムを終え、帰って来た。当地では、5回目になるアシュラム集会は、参加者は以前より少なかったが、確実にその種が芽を出し始めているのを感じた。「聖霊の実ルテル教会」のキムホソン先生が、昨年のアシュラムから一年間毎月「マンスリーアシュラムファミリー」を続けてくださり、参加者も少しづつではあるが増えて来ている。41年前、一粒のからだねとして蒔かれたアシュラムの種は、途中途絶えたかのように見えただけでも、息をふきかえした。どうかこの生え始めた芽を大事に育てていこうよ。(恵)

アシュラム修道場生活記 番外編 「アシュラムの皆さんへ」

今泉 晶久

～恩師 榎本てる子師の紹介で修道場生活 5ヶ月、
4月より地元に戻り再出発！

温かく見守りお祈り下さったアシュラムの皆様、感謝です。引き続き他の修道生共々よろしく願いいたします。～

僕がここで学んだことは信仰です。

ここに来る前からこの世界には「自分を越えた力」があるんだろうなとは思っていました。しかしそれは「困ったときの神頼み、苦しくなったら帰る場所」というイメージでした。しかしクリスチャンのみんなを見てると、ある意味当たり前前に神様がいて、ここでの生活の前半は「神様あなたはいるの？いないの？」と問い続ける毎日でした。

しかし後半からは「俺は神様を信じるの？信じないの？」と問いかけが変わったのです。

「いる、いない」という根拠に基づいた人間の物差しで図っていても何の意味もないなと気付いたんです。

神様を信じる、というのは、神を第一として生きるということだと思います。

神を第一というと崇高で遠く感じますが、それをもう少し言葉にすれば「目に見える見栄えや力より、目に見えない感謝や愛情を優先して生きる。」とするとまだわかりやすいです。

僕は毎日の祈りとここでの生活を通して、目に見えないものを優先して生きて行きたいなと思いました。目に見えるものは依然大好物です



引越しの朝も早天祈禱会。
五ヶ月間、殆ど休まず通い続けました。



修道場での最後の早天。
この日の朝食は晶久君シェフ。手作りケーキも！

が、いままで目に見えるものを優先しすぎて、大事なものを失ったことが多すぎるので。

そして目に見えるものに囚われず、感謝や愛情を優先して生きるには、神様の力が必ず必要です。必要というのは「手段として」ではなく「目的としてです」。

そしてこれは考えを変えたというより「もともと自分にあったものが掘り出された、気づいた」と言う方がしっくりくるんです。

以上のような理由から（実際はたくさんの出会いと祈りの中で）僕は神を信じて生きることを決めました。神は、今まで僕がたどってきた全てに意味を与え、これからも僕に用意された計画に導いてくれていると信じています。そのなかで少しづつ道も示されている気がします。

もちろんまた揺らいだり離れたりいろいろあるでしょうが、僕は信じることを決めました。なので、神様、どうか僕とずっと共にいてください。アーメン



（アシュラムの方々の祈りの中で、
和子母・常任料理ご奉仕の皆様と。）

“榎本てる子師のために多くの皆様からの熱いお祈りをいただき励まされてあります。息苦しさの中でも感謝を忘れず懸命に生きようと頑張っているてる子姉をこれからもよろしく願いいたします。

皆様のお手元にこのアシュラム誌が届かれる頃には、またてる子師の笑顔が戻りますように！”（ラザロを思い祈る和子母）



| 5月の聖書教室など | |
|-----------|-----------------------------------|
| 8(火) | 札幌ミニアシュラム |
| 10(木) | 常任運営委員会(アシュラムセンター) |
| 12(土) | 新さん祈りの家(滋賀・湖南市 新千重子姉宅 AM10:00) |
| 14(月) | 福岡聖書教室(博多クリオコートホテル PM1:30) |
| 15(火) | 大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30) |
| 16(水) | カフェちろば聖書入門講座(京都・深草 PM1:30) |
| 20(日) | ちろば牧師記念チャペルタ礼拝・愛餐会(PM5:00) |
| 25(金) | センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00) |
| 26(土) | 広野祈りの家(兵庫・三木氏 猪瀬姉宅 PM1:00) |
| 28(月) | 静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 PM2:00) |
| 29(火) | 東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30) |
| 29(火) | 桜美林リトリートアシュラム(桜美林大学荊冠 PM2:30) |

| 5月のアシュラムなど | | |
|----------------|-----------------------------|-----------------------|
| 3(木) 5(土) | 第26回 盛岡・秋田アシュラム 奉仕者 櫻本恵師 | 019-636-0285 角谷晋次師 |
| 3(木) 5(土) | 第38回 関東青年アシュラム 奉仕者 溝口勝幸師 | 048-768-3001 森戸敬子姉 |
| 14(月) 15(火) | 第12回 那須アシュラム 奉仕者 大門義和師 | 0287-69-0310 井戸淳子 |
| 18(金) 19(土) | 第5回 北陸・金沢アシュラム 奉仕者 櫻本恵師 | 076-241-4409 石田哲夫兄 |
| 26(土) | 第18回 愛知一日アシュラム 奉仕者 鷹取裕成師 | 0562-47-0528 溝口勝幸師 |

| 6月のアシュラム予定 | | |
|----------------|------------------------------|---------------------------|
| 2(土) | 第17回 新潟一日アシュラム 奉仕者 加々美要師 | 0250-23-2697 吉澤昭男兄 |
| 5(火) | 第8回 札幌一日アシュラム 奉仕者 櫻本恵師 | 011-561-7951 吉田すみゑ姉 |
| 6(水) 8(金) | 第43回 教職アシュラム 奉仕者 加々美要師 | 048-789-1325 加々美要師 |
| 12(火) | 第22回 埼玉一日アシュラム 奉仕者 岩波久一師 | 048-726-2208 秋山信夫師 |
| 14(木) 16(土) | 第44回 加太アシュラム 奉仕者 黒田朔師 | 072-445-8235 西川武兄 |
| 21(木) 24(日) | たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅 奉仕者 櫻本恵師 | 0748-33-4030 アシュラムセンター |

| 7月以降のアシュラム予定 | |
|--------------|--------------------|
| 7月16日 | 福岡一日アシュラム |
| 7月28日 | 天上の友を憶える日礼拝 |
| 9月14～15日 | 新潟一泊アシュラム |
| 9月26～28日 | 第6回 日光オーリーブの里アシュラム |
| 10月1～2日 | 第42回 山陰アシュラム |
| 10月5～6日 | 第23回 北陸・富山アシュラム |
| 10月26～27日 | 第19回 愛知一泊アシュラム |
| 11月14～16日 | 第42回 阪神アシュラム |
| 11月20～22日 | 第43回 京浜アシュラム |

みことば

下妻シャロームキリスト教会牧師

山本 悦子

列王紀上3章

「ソロモンの知恵」(2)

「わたしは取るに足らない若者で、どのようにふるまうべきかを知りません…。あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与え下さい」3:7以下 ソロモンは王位を継承したとき、この様に謙虚な思いで継承したのです。すると神様は正しく聞き分ける知恵を与えられました。

ある日、遊女が二人王のもとにきて正しい裁きを願い出ました。二人にはそれぞれ子供が与えられ、一人の女が赤ん坊によりかかり、子供が死にました。その子をそっともう一人の女の子供と取替えたのです。二人は生きているのは自分の子だと言い張ります。するとソロモンは「剣を持ってくるように」と命じ、「生きている子を二つに裂き、一人に半分を、もう一人に他の半分を与えよ」と言います。すると生きている子の母親は、その子を哀れに思うあまり「王様、お願いします。この子を生かしたままこの人にあげてください。この子を絶対に殺さないでください」と言いました。ソロモンは「この子を生かしたまま、さきの女に与えよ。その女がこの子の母である」

王の下した裁きを聞いて、人々は王を畏れ敬うようになりました。神の知恵が王のうちにあって、正しい裁きを見たからです。

神に祈るとき、神は正しく聞き分ける知恵を与えられます。

「わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです。」(ルカ17:10) この様な謙虚さを身につけたいものです。

—たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅—

| | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| ●日程、予定 | ●費用 60,000円 |
| 6/21(木) 那覇空港集合 12:30 サマリア人病院訪問 | (ホテル宿泊費、食事、入館料、レンタカー、フェリー代 含む) |
| 22(金) 慰霊祭(第2外科壕跡) | ※飛行機チケットは各自で |
| 23(土) 伊江島、わびあいの里、ぬちどぅ宝、反戦資料館 | お早目にお取り下さい。 |
| 24(日) サマリア人伝道所 礼拝解散 | ●定員 8名 ご参加 お待ちしています。 |